

## 「明るさ」を求めた耐震補強 …… 尾生の旧家

6年前に大規模改造を行った旧家で唯一改造が残っていた座敷（8帖＋縁側）を改修することになり再びのご訪問となった。8畳和室と縁側の間には2間巾の4枚引違障子が入っていたが、上部の欄間部分はすべて壁の為、光が遮蔽され大変暗く、利用勝手の悪い応接室兼用の座敷となっていた。

今回、これらの問題解消と合わせて耐震補強を行う事から、障子と欄間部の壁をすべて取り払い、片側にたすき筋交いを入れてワンルームに改造した。床は以前の8帖和室の中央部分に4.5帖の薄畳を敷き、その他は全て「内地樺」の板張りにしている。畳部分とソファア一下には床暖を組み入れた。内地樺は設計者の知り合いの工場から直接購入の手筈をした。施主の父君が工場まで受け取りに行って、その折横に積まれていた白太で見事に揃った杉根太を見つけて即購入。縁側に取り付けられていた既設の勝手ロドア隠しを目的に新設した格子戸（写真右側）に使われている。何でもビックリするくらい安かったとのこと(笑)。



尾生の家 改修



障子を閉めると柔らかい雰囲気

